

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第 62 回全日本剣道選手権大会 1 ページから



優勝＝竹ノ内佑也四段 閉会式後、恩師と家族に囲まれて

2014 年少林寺拳法全国大会

14 ページから



一般五段以上の部
最優秀演武賞＝福家健司・麻田育弘（東京）



優勝＝吉田佳史教士七段（徳島）

第65回全日本弓道遠的選手権大会

20 ページから

ニュース
グラビア

第62回全日本剣道選手権大会

竹ノ内佑也が

最年少優勝



優勝＝竹ノ内佑也四段

平成26年、第62回全日本剣道選手権大会は、11月3日、日本武道館で開催された。大会には64名の選手が出場し、剣道日本一を争った。

決勝は、竹ノ内佑也四段（福岡・筑波大）と國友錬太朗四段（福岡・福岡県警）の初出場同士が対戦。竹ノ内は國友から面二本を奪い天皇盃を手にした。21歳5カ月での優勝は最年少優勝記録を更新することになり、学生での日本一は、昭和46年の川添哲夫以来43年ぶりとなった。



決勝＝竹ノ内（左）対國友



一回戦＝竹ノ内（左）対鈴木

若い剣士の快進撃

——竹ノ内佑也、優勝までの対戦相手——

- 一回戦 鈴木 次彦（岩手・岩手県警・34歳）
- 二回戦 川井 良介（茨城・筑波大大学院・23歳）
- 三回戦 笠原 孝輔（三重・三重県警・31歳）
- 準々決勝 西村 健（兵庫・兵庫県警・32歳）
- 準決勝 畠中 宏輔（東京・警視庁・27歳）
- 決 勝 國友 錬太郎（福岡・福岡県警・24歳）

第62回全日本剣道選手権大会

竹ノ内が記録づくしの優勝

史上最年少、学生日本一、初出場初優勝



恩師・家族・筑波大学関係者と共に

第62回全日本剣道選手権大会（主催Ⅱ全日本剣道連盟）は11月3日、日本武道館で開催された。全国の都道府県予選を勝ち抜いた64名の剣士が出場し、トーナメント戦により争われた。

決勝は、竹ノ内佑也四段（福岡・筑波大）と國友錬太郎四段（福岡・福岡県警）の初出場同士の対戦となった。竹ノ内は國友から面二本を奪い、天皇盃を手にした。21歳5カ月での優勝は、昭和35年第8回大会、桑原哲明の21歳9カ月を5年ぶりに更新する最年少優勝記録。学生日本一は、昭和46年川添哲夫（国士舘大）以来43年ぶりの快挙。また、初出場・初優勝は、平成2年の宮崎正裕以来24年ぶりとなった。

連覇を目指す内村良一錬士六段（東京・警視庁）は、竹下洋平四段（大分・大分県警）に敗れ、3回戦で姿を消した。



開会式



開場を楽しみに待つ剣道愛好者

来年の世界剣道大会の記念グッズも販売



大会の出場選手資格は、段位の制限はなしで、満20歳以上。試合は、1回戦から3回戦までは5分間、4回戦からは10分間の三本勝負。時間内に決しない場合は、時間無制限の一本勝負の延長戦によって争われる。

◇第1・2ブロック

（1回戦より準々決勝）

第1ブロック、前回3位の正代正博（警視庁）は、2回戦で笠原孝輔（三重県警）と対戦し、延長の末、面を奪われ敗退。来々5月の世界大会に向けた強化選手の一員である竹ノ内佑也（筑波大）は、3回戦で笠原と対戦。延長開始直後、笠原が面に打って出たところを竹ノ内が胴を決め一本勝。準々決勝では西村健（兵庫県警）から面を奪った竹ノ内（写真・左）が準決勝進出を決めた。



第2ブロック、全国警察大会の個人戦を制覇した畠中宏輔（警視庁）は、3回戦まで全ての試合を延長の末、勝利してきた。もう一つの山から勝ち上がったのは、中野貴裕（京都府警）。中野は、1回戦で前回2位の小谷明德（千葉県警）と26分間の激闘を制した。準々決勝、中野が打ちに出ようとしたところを、畠中の力強い諸手突が決まり（写真・左）、畠中が準決勝へ。

第2ブロック、全国警察大会の個人戦を制覇した畠中宏輔（警視庁）は、3回戦まで全ての試合を延長の末、勝利してきた。もう一つの山から勝ち上がったのは、中野貴裕（京都府警）。中野は、1回戦で前回2位の小谷明德（千葉県警）と26分間の激闘を制した。準々決勝、中野が打ちに出ようとしたところを、畠中の力強い諸手突が決まり（写真・左）、畠中が準決勝へ。



◇第3・4ブロック

(1回戦)準々決勝

第3ブロック、前回優勝の内村良一(警視庁)は、3回戦で竹下洋平(大分県警)に小手を奪われ敗退。網代忠勝(兵庫県警)は、3回戦で初出場の國友錬太郎(福岡県警)に胴を決められ一本負。ベテラン勢が姿を消した準々決勝は、國友対竹下の若手同士の戦いとなった。スピード感ある技の攻防でも決着がつかず延長戦へ。最後は、國友の思い切った面が決まり(写真・左)、國友が準決勝に駒を進めた。



第4ブロック、前回3位の安藤

翔(北海道警)は、1回戦で坂田千明(宮崎県警)に面を奪われ敗退。

その坂田を破り、準々決勝へ進んだのは、本大会4回目出場の高橋秀人(警視庁)。もう一つの山を勝ち抜いたのは、強化選手の西村英久(熊本県警)。準々決勝、高橋の「竹刀落し」反則2回により、西村が一本を先取。その後、高橋は小手を返すが、最後は西村の出端面が決まり(写真・左)、西村がベスト4へ進出した。



実業団からは2名の剣士が出場。写真上・橋本桂一選手(埼玉伊田テクノス) 写真下・三雲悠佑選手(滋賀・東レ)



11回目の出場を果たした米屋勇一選手(埼玉県警)

◇準決勝

竹ノ内佑也 ドメー 畠中宏輔

試合開始16秒、畠中の跳込み面に
対し、竹ノ内は狙い澄ましたかのよ
うに、面返し胴を決め一本を先取。
二本目は、竹ノ内の手元が上がった
ところを、畠中の鋭い小手が打ち込
まれたが、竹ノ内は、畠中のスピー
ドに負けることなく、小手を返して
面を決め、初優勝に王手をかけた。



準決勝＝竹ノ内（右）が胴を決める

◇準決勝

國友錬太郎 メー 西村英久

初出場同士の戦い。お互い手元を
崩して防御姿勢になることが少な
く、構えを崩さず一足一刀の間合い
を保ちつつ、剣先での攻防が続く。
5分過ぎ、西村が竹刀を担ぎ、面に
打ち込むが決まらない。國友は剣先
で中心を攻め、西村の手元を浮かせ
たところを、鋭く小手に打ち込むも
決まらない。勝負は延長戦へ持ち込
まれた。開始3分過ぎ、先に手元が
動いたのは西村。西村の片手突き
は、國友の喉元をとらえることがで
きず、剣先が流れた。國友は西村の
突きと同時に面に打ち込み一本。延
長戦を制した國友が決勝戦へ進出し
た。



準決勝＝國友（左）が面を決める

竹ノ内が面二本を決める

◇決勝

竹ノ内佑也 メーモ 國友錬太郎

初出場の両者は、福岡県予選でも剣を交え、互いに手の内を知っている。國友は、先に間合いを詰めて前に出てくる竹ノ内に合わせて技を出す。6分過ぎ、竹ノ内は間合いを詰め、小手・面としっかり打ち切った。國友は、竹ノ内の小手で居ついてしまい（写真・上）、面も打たれてしまう（写真・下）。この面が一本となり、竹ノ内が先制する。一本取られた後の國友は、竹ノ内より先に間合いを詰めて攻めるようになる。竹ノ内は、間合いを詰められたことを嫌い、大幅に後ろにさがった。さすが國友は、間合いを詰め、打ちに出ようとした。そこを竹ノ内は、國友の竹刀を剣先で抑え、跳込み面を放ち、勝負を決めた。最後まで攻め続けた竹ノ内佑也が初出場・初優勝を成し遂げた。



決勝＝竹ノ内（右）が小手を打つ



決勝＝竹ノ内（右）の面が決まる

●優勝Ⅱ竹ノ内佑也四段
(筑波大3年)



宮崎県富岡町(現宮崎市)出身。

3歳のときから竹刀を握り、自宅近くの高岡錬士館道場に通った。父親は道場の指導員をしていた。強い気持ちで戦う原点は「小学生の頃からです。負けず嫌いでした」

中学3年生の時、日本武道館で開催された全日本選抜少年剣道個人錬成大会で優勝している。今回の優勝は、その時以来の個人戦日本一である。

「高校、大学でも、個人戦で日本のタイトルは取ったことがなかったので嬉しいですね」

高校は、剣道の強豪校、福岡県の福岡大学附属大濠高校へ進学。

「恩師の黒木貞光監督と同郷ということもあり進学しました」

優勝した今の気持ちを聞くと、

「選手権大会を優勝したという実感が全然わかないというか、どうしているのかわからないです。選手権大会は、テレビで見ているだけの大会でした」「今日の試合では相手に攻められても、下がらなかったことがよかったですと思います。また、自分の攻めが効いていたと思います」という答えが返ってきた。

大きな試合でも緊張しないという。 「ほとんど緊張しませんが、今日の1試合目は緊張して、足が固まりました。終わってみれば調子がよかったのかと思いますが、試合が長引いたら、足が重くなったりしました。体力面はまだまだです」

昨年の春から世界剣道大会へ向けた全日本の強化合宿に参加している。

「合宿では、普段とは違う稽古内容からいろいろと学び、吸収しています。合宿で学んだことが、今日は全部出せたと思います」

来年5月の世界剣道大会の選手に選んでほしいと言った後、「でも、世界で戦うにはもっと力を付けたいいけないです」と力強く決意を語った。

【選手コメント】

▽準優勝Ⅱ國友錬太郎選手(福岡県警)



「子供の頃から選手権大会には出場してみたいと思っていました。まさか自分がこんな上まであがってこれるとは考えていなかったの、一杯戦おうと思えました。初戦は緊張しましたが、徐々に慣れてきて自分の剣道ができたと思います。いつも居ついたらと打たれてしまうので、それだけを気を付けていたのですが、最後は居ついてしまいました。またこれから頑張ります」

▽第3位Ⅱ畠中宏輔選手(警視庁)



「前回出場したときも準決勝で負けてしまい3位でしたので、一つ上を

と思ったのですが、しょうがないです。竹ノ内選手は、学生なのに正統派のしっかりした剣道をしていますね。打たれたところは、自分なりに反省しています。一本目は、相手に引き出されたんだと思います。先制されたことによって、動揺はしませんでした。今年は全国警察剣道大会の個人戦で優勝できたので、もうひと踏ん張りできればと思いました。また一からやり直して頑張りたいと思います」

▽第3位Ⅱ西村英久選手(熊本県警)



「最後は悔しかったですけど、ここまでこれたので、楽しい選手権大会でした。勝ち上がってこれたのは、たまたまです。胸張って『勝ちました』という雰囲気ではありませんね。全日本の合宿に参加させていただいた経験を、活かせることがよかったですと思います。周りの方から選手権大会は、緊張するからと

言われたのですが、私はそんなに緊張しませんでした。雰囲気にとれだけ慣れるかということ意識しました。全日本の試合だからということ強く意識しないで、いままでの稽古で学んできたものを出せるよう意識しました。来年は優勝を狙いたいです」

▽ベスト8 西村健選手(兵庫県警)



「今日の結果には満足していません。竹ノ内選手とは合宿で何度か稽古をしたことがあります。その際、竹ノ内選手は別格だと感じました。同じところを何回も打たれていたのに、結局そこを打たれてしまったというのが反省点です。逃げた小手を打ってそこを返されました。竹ノ内選手の上手さを改めて感じました。過去2回とも2回戦で敗退していましたが、今回はベスト8まで残ることができました。また来年も出場して、上位を目指します」

▽ベスト8 中野貴裕選手(京都府警)



「2012年のイタリア世界大会のメンバーに選ばれながら、大会直前に大怪我をしてしまい、2年7か月の間、大会に出られませんでした。その間、いろいろな方に迷惑をかけてしまいました。これまで支えていただいた多くの方々に恩返しができればという思いで出場した大会でした。」

今日着けているこの胴は、世界大会が終わった後、大阪の木和田さんが、日本代表の胴をわざわざ京都まで持って来てくれて、『この胴はお前のものだ』と渡してくれました。この胴を付けてもう一度、檜舞台に上がるんだという思いを胸にリハビリに励みました。京都府を代表して出場しておりますので、怪我をしていないことを理由に、自分自身に甘えることなく、一戦一戦、勝負するということつもりで試合に臨みました」

▽ベスト8 竹下洋平選手(大分県警)



「もう少し上位にいきたかったです。自分のよいところは出せたので、今日の剣道には満足しています。内村さんとの試合は、先輩に胸を借りるつもりで一生命掛かっていきました。会場がざわめくまで一本取ったのがわかりませんでした。最後は、打ちに出ようかと迷っていたところを打たれました。一瞬の隙をつかれました。悔しい気持ちがありますので、また来年頑張ります」

「自分の弱いところが出ました。悔しいです。でも、今大会は自分の持っている力を出せたのではないのか」と思います。結果が出ないのが不甲斐ないです。若い選手も力を付けてきていますので、来年はどうなるか分かりませんが、挑戦できる限り頑張ります」

▽11回目の出場 米屋勇一選手(埼玉県警)

「変な緊張もなく、固くならず、昨年までとは違った全日本選手権だったと思います。私に勝った森選手は、大学4年の時の同部屋の1年生でした。一番可愛がっていた後輩なので、彼とは最初からやりたいと思っています。負けたことに対しては悔しいですけど、すっきりしました。これからは、若い人を育てていこうと思います。最後に森選手と試合ができてよかったです」

▽前年度優勝者 内村良一選手(警視庁)

「力不足でした。まだまだ稽古が足りないと感じました。足りないところが分かったので、また明日から頑張ります」

▽大学で竹ノ内選手を指導 鍋山隆弘・筑波大学男子剣道部監督

「竹ノ内君は、勝負勘がすごく長けていて、なかなか自分の心が乱れな



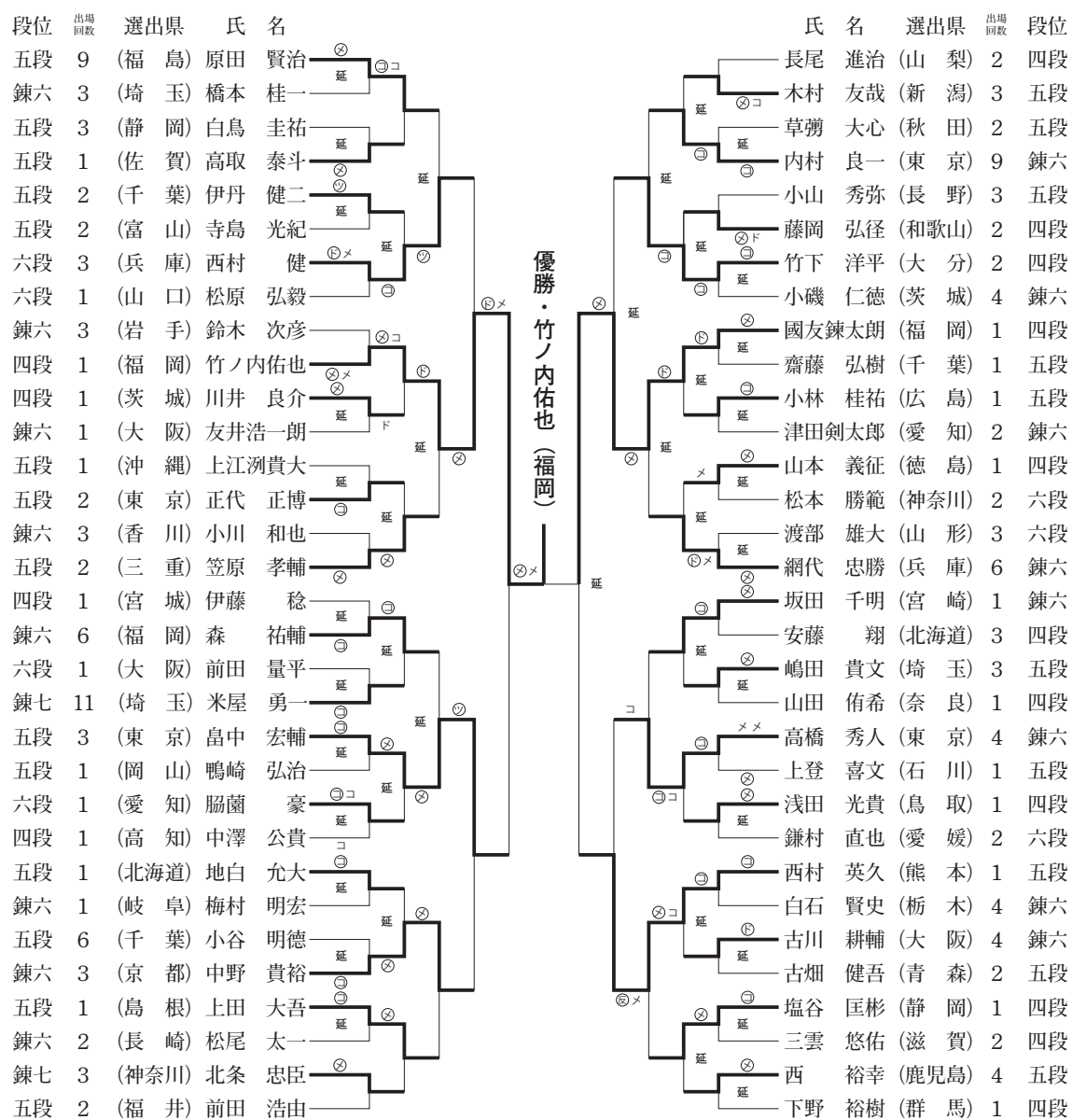
少年剣道指導
木刀による剣道基本技稽古法(調布市剣道連盟)



日本剣道形
打太刀・宮川英俊範士、仕太刀・作道正夫範士

いというところがさすがだと思いま
す。ここまでやるとは予想外でし
た。腹を据えて戦ったのがいい結果
につながったのだと思います。剣道
が強いだけではなく、剣道界を引っ
張っているようなリーダーの人材
に育てていきたいです」

第62回 全日本剣道選手権大会



日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



(写真提供：『剣道時代』)

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

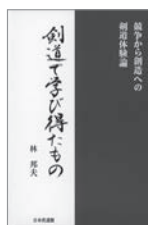


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)

2014年
少林寺拳法全国大会

全国の仲間 に修練の成果を披露

2014年少林寺拳法全国大会（主催・少林寺拳法連盟）は、11月3日、埼玉県さいたま市のさいたまスーパーアリーナで開かれた。会場には約7000名が集まり、拳士たちは積み重ねてきた1年間の成果を演武で発揮した。

発表の部「親子の部」

大会は午前9時に開会した。大会副会長・宮崎栄治郎埼玉県少林寺拳法連盟副会長の開会宣言、新井庸弘少林寺拳法連盟会長の挨拶でスタート。午前中は、技の習得度を競う「競技の部」の予選と、得点を争わない「発表の部」が行われた。

競技の部は、中学生以上の年齢、段位、性別ごとに分かれた16部門の組演武と、4部門の団体演武が行われた。アリーナに設けられた24のコートで各演武が繰り広げられ、広い会場内に拳士たちの気合の音が響き渡った。審判による得点で競われ、好成績を取った組・団体が午後の本選進出を決めた。

発表の部は、少林寺拳法の幅広い可能性を追求するために行われて

いる。小学生の組・団体演武や男女の運用法（防具を着けた攻防）のほか、「親子の部」「夫婦の部」「障害者の部」といった年齢や性別、ハンディキャップを越えた演武が行われた。発表の部では、すべての演武の後、全員に賞状が贈られた。

午前中の競技・発表が終わり、アトラクションとして、埼玉県少林寺拳法連盟と友好関係の深い栃木県少林寺拳法連盟による演武が披露された。

午後は、競技の部の本選が行われた。予選を勝ち抜いた精鋭たちは、気迫溢れる演武で技を競い合った。



約1時間にわたって行われた本選がすべて終了すると、式典に移った。

発表の部



(上) 夫婦の部に出場＝中橋信和さん・裕子さん(京都)
 ▷信和さん「二人とも少林寺拳法をやっていたことがきっかけで結婚したのですが、夫婦演武として大会に出るのは初めてです。今日は稽古のときよりは良くできたかなと思います。子供も一人少林寺拳法をやっているのですが、三人演武や親子演武もしています。少林寺拳法について話ができた、コミュニケーションの場になっています」

(右ページ) 親子の部に出場＝松浦俊也さん、大道くん(岩手)
 ▷俊也さん「今日は良くできていました。私は大学生の時から少林寺拳法をやっています。息子はものごころつかない頃から一緒に道場に来ていて、5歳の頃当たり前のようにはじめました。親子で一緒にすることは思い出にもなりますし、成長も肌で感じられるのが嬉しいですね」
 ▷大道くん(10歳)「自分なりに力を精一杯出せました。久しぶりにお父さんと演武できて良かったです。相手がお父さんなので、時間があればいつでも練習ができました。少林寺拳法は、争うんじゃなくて、他の人とコミュニケーションが取れるところが楽しいです」



運用法



障害者の部

国歌斉唱、鎮魂行が行われた後、大会会長・松永光前埼玉県少林寺拳法連盟会長(日本武道館会長)が挨拶に立った。

「拳士の皆様には素晴らしい技を示していただきました。少林寺拳法は関係者の努力により、年々、進歩をしています。それは日本の将来にとつて喜ばしいことです。本日出場された皆様にも、これを機として、一層、少林寺拳法の普及・発展に尽くしていただきたいと思います」

来賓祝辞では、程永華中華人民共和國駐日特命全權大使、高村正彦少林寺拳法振興議員連盟会長、上田清司埼玉県知事、清水勇人さいたま市長が、それぞれ出場拳士たちの健闘を称えた。

浦和学院高校によるマーチングドラムのアトラクション、東日本大震



松永光大会会長

災復興支援のために集められた募金の被災地連盟への贈呈と続き、ここで「弁論の部」の発表が行われた。優秀弁論のうち特に秀でていると選ばれた永原竹弘さん(岡山)が、「現代社会における少林寺拳法による人づくりの意義」のテーマで弁論した。

次に、競技の部の表彰が行われ、各部門の受賞者へ大会役員から表彰状が手渡されると、会場からは大きな拍手が送られた。

最後は宗由貴少林寺拳法グループ総裁が挨拶を行った。

「少林寺拳法は他の人との比較、競争ではありません。自分の成長を実感し、楽しむものです。今日この全国大会に出場したという感動と、多くの人の前で演武した緊張感、この2つは必ず皆さんの人生に役に立つものだと思います。全ての人が、自信と勇気を得ました。明日からこの力を社会で生かしてください」

今回の全国大会は京都府で開催されるのが事務局から発表され、大会副会長・神山佐一埼玉県少林寺拳法連盟会長の閉会宣言で大会は幕を閉じた。

競技の部



(左) 大学生男子の部・最優秀賞
=奈良和記・古澤慈士 (大阪)

(下) 一般男女有段の部・最優秀賞
=山本百紅・小林悠人 (岡山)

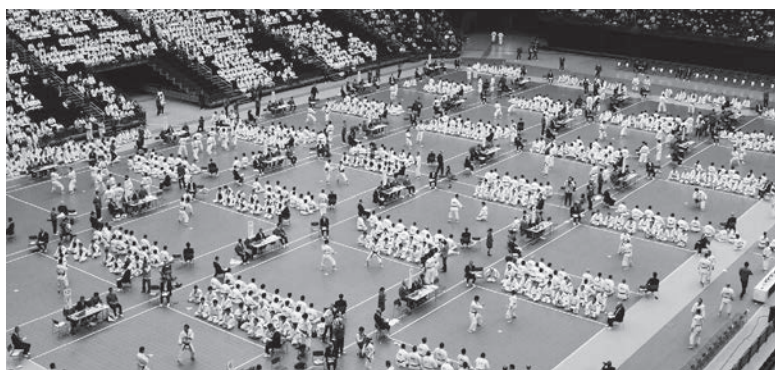


(下) 一般男子五段以上の部・最優秀賞＝
福家健司・麻田育弘 (東京)

▷福家さん「師匠の大屋昭夫先生が9月に亡くなり、先生に捧げられればと思い、二人でやってきました。良い報告ができることになり、ホッとしています。先生の教えを次の世代に繋いでいくのが、私たちの使命だと思っています」

▷麻田さん「大屋先生にはお世話になりましたので、良い報告ができて嬉しいです。先生に教えてもらったことを伝えていきたいです」





大会の様子



優秀弁論発表＝永原竹弘さん（岡山）

■大会結果（競技の部）

種目	最優秀賞	優秀賞	優良賞
一般男子マスターズA	久保敦志・清水一志（千葉）	曾根章好・佐藤孝則（岐阜）	田村勝也・手賀幹雄（東京）
一般男子マスターズB	大上秀樹・野辺耕一（東京）	榊原淳・谷口洋一（埼玉）	分藤秀明・川久保弘智（東京）
一般女子マスターズ	片庭美穂・大竹真有（大阪）	竹之下ゆう子・久保田和枝（宮崎）	吉田宏子・遠田由美子（山形）
一般男子五段以上	福家健司・麻田育弘（東京）	亀井貴史・酒谷親弥（大阪）	吉川元淑・片山英樹（東京）
一般男子三段、四段	小澤晴太・川島佑斗（東京）	池田翔・谷口尊信（大阪）	新井椋大・伊藤輝（東京）
一般男子初段、二段	村上竜二・寺村龍紀（広島）	木津西忍・脇村勇輝（大阪）	桂木周平・中谷友哉（大阪）
一般女子三段以上	鈴木里菜・以倉郁（東京）	中西順子・稲田実花（東京）	高橋奈津子・内川麻衣子（千葉）
一般女子初段、二段	石井なるみ・小川真季（東京）	白神淑江・弓場美里（岡山）	河本英美女・大角愛理花（広島）
一般男女有段	山本百紅・小林悠人（岡山）	森田賢吾・宮迫汐里（大阪）	源秋策・山上悠紀（東京）
大学生男子	奈良和記・古澤慈士（大阪）	武下真樹・田村龍（東京）	内山田駿太・山岡健太郎（全日本学生）
大学生女子	伊勢歩実・佐原まい（東京）	林恵理子・畔蒜みく（東京）	丸山俊江・三橋智恵（東京）
大学生男女	高橋快・倉松瑞樹（大阪）	吉田奈央・東坂博樹（北海道）	中島岳・長谷小春（大阪）
高校生男子	大谷紘嗣・大城浩司（全国高校）	木戸海周・宮迫汰一（大阪）	岡田東馬・小柴皓嗣（静岡）
高校生女子	大野水彩・山内友里加（全国高校）	笹谷明日香・泉千雅子（京都）	岡田理沙・石田叶恵（静岡）
高校生男女	後藤隆志・山本瀬菜（大阪）	木原結城・木原愛望（大阪）	浦元早紀・三宅歩（兵庫）
中学生男子	小森丈司・松田大毅（千葉）	青木賢祥・佐藤佑亮（北海道）	尻江信悟・坂口楓馬（北海道）
中学生女子	川畑依子・宮下麗奈（愛知）	中島霞・西脇茉莉江（愛知）	宮崎愛子・鈴木優希（静岡）
一般団体	杉本健一ほか（東京）	村橋直ほか（福岡）	大崎剛ほか（大阪）
大学生団体	日野翔太ほか（東京）	中村祥樹ほか（全日本学生）	神本恭介ほか（神奈川）
高校生団体	村上健ほか（埼玉）	名定典都ほか（兵庫）	常盤馨ほか（全国高校）
中学生団体	井上日和ほか（岡山）	新原裕翔ほか（北海道）	青山侑末ほか（静岡）

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『^{はく}魄』は生きるための生命力――
『^{こん}魂』は人間を善に導く原動力――

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

――魂魄(こころ)を育てる――

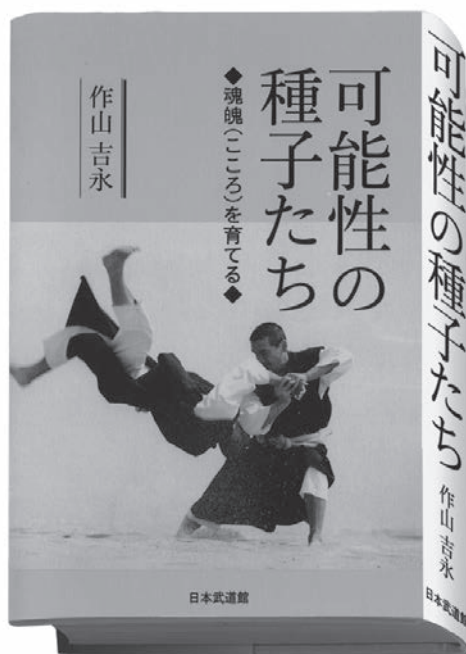
金剛禪総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

- 第1章 少林寺拳法 / 第2章 直心是道場 / 第3章 師事 /
- 第4章 マイ・アメリカ / 第5章 可能性の種子、芽吹く /
- 第6章 高山少林寺 / 第7章 魂魄(こころ)を育てる /
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



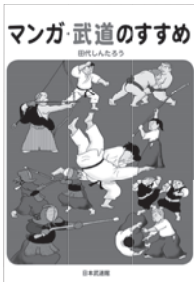
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！



第65回全日本弓道遠的選手権大会

吉田佳史、悲願の初優勝

女子は昨年2位の片山正美が初優勝



第65回全日本弓道遠的選手権大会（主催Ⅱ全日本弓道連盟）は10月24～26日、全日本弓道連盟中央道場で男女2部門にそれぞれ五段以上の109名が出場し、遠的日本一をかけて争われた。男子の部では10射皆同士の射詰競射で吉田佳史（徳島）が前年度優勝の友安正人（石川）を制して初優勝。女子の部では片山正美（静岡）がただ一人9中して、こちらも初優勝となった。

今大会は男女ともに射距離60m、79cmの的を用いて、的中制で行われ

東日本大震災復興支援 とどけよう スポーツの力を東北へ

第65回全日本弓道遠的選

遠的の的

6	7	8	9	10	計
X	O	O	O	O	9
X	O	O	O	O	7
X	X	O	X	O	7
X	O	X	O	O	8
X	O	X	O	X	7
X	O	X	O	X	8
X	O	X	O	X	7
X	O	X	O	X	8
X	O	X	O	X	9
X	O	X	O	X	9
X	O	X	O	X	9

3	4	5	6	7	8	9	10	計
X	O	X	X	X	O	X	O	4
X	O	X	X	X	X	X	O	9
X	O	X	X	X	X	X	O	8
X	O	X	X	X	X	X	O	8
X	O	X	X	X	X	X	O	7
X	O	X	X	X	X	X	O	7
X	O	X	X	X	X	X	O	10
X	O	X	X	X	X	X	O	7
X	O	X	X	X	X	X	O	5
X	O	X	X	X	X	X	O	4
X	O	X	X	X	X	X	O	10
X	O	X	X	X	X	X	O	6

第65回全日本弓道 遠的

立番	名前	所属	1	2	3
1	野中 誠	宮城県	O	O	X
2	野川 政子	埼玉県	X	X	O
3	河田 洋子	秋田県	X	O	X
4	野原 秀志	東京都	X	X	X
5	宮内 大志	神奈川県	X	O	O
6	三川 貴子	兵庫県	X	O	O
7	野田 貴子	埼玉県	X	O	O
8	梅本 志	大阪府	X	X	O
9	小川 正志	東京都	X	O	O
10	志保 和子	埼玉県	X	O	X
11	田中 真紀	山梨県	X	O	O
12	中山 智恵	千葉県	X	O	O



男子優勝＝吉田佳史選手（徳島）



近的的の的場（左下の建物）が可動式となっており、奥に遠的的の的場がある

た。各自的中制による6射（1回目2射、2回目4射）の予選を行い、上位24名が決勝に進んだ。決勝進出最下位の選手が複数の場合は遠近競射を行って24名を決定した。決勝は1立に4人立2立が入り、男子3立、女子3立の順に行われた。各自10射（2射5回）を行い、優勝決定戦は射詰競射で、2位以下の決定は1m的での遠近競射で行われた。



3位＝松田宏行選手（宮崎）



4位＝野村豊司選手（京都）



5位＝曾山良和選手（石川）



●2位・前年度優勝＝友安正人選手（石川）

「あそこまでいったので、やはり悔しいですね。今年は連覇を目標にして稽古してきたので残念です。最後は集中が途切れてしまいました。同じ石川県にこの大会を2回優勝された曾山さん（今回5位）がいるので、その方を見て学んで、このレベルになることができました。石川県では土日に遠的練習を行っているので、週1回は稽古してますね。弓道は高校からはじめて、大学4年の最後にやっと華が開き出し、大学院生になってから力がぐっと伸びましたね。もう一度優勝したいと思います」

■男子の部

予選で6射皆中は、杉江敏道（滋賀）、和田尚樹（広島）、渡邊幸太（山梨）、川崎良典（東京）、大森亮登（東京）、松田宏行（宮崎）、岡本晔徳（富山）、曾山良和（石川）、中澤国弘（山梨）、辻進（島根）、目光玄（東京）、大隅雅成（鹿児島）の12名。5中の19名が遠近競射を行い、前年度優勝の友安正人（石川）、出場選手中最多となる17回目出場の吉田佳史（徳島）ら12名が決勝進出を果たした。

決勝、4回目（8射）を終えて皆中は大森、曾山、友安、吉田の4名。2立目前立の大森は10本目を外して惜しくも9中。2立目後立の曾山は9本目が外れて9中で終えた。3立目前立落前の友安と後立落前の吉田のどちらかが一手を詰めれば優勝決定という状況となり、観客の間にも緊迫感が走る。

甲矢は互いに詰めて皆中をかけた大留矢、先に引いたのは後の吉田。吉田の矢は放物線を描いて的に吸い込まれると、観客から大きな拍手が送られた。それを知ってか知らずか友安は落ち着いた様子で会に入る。矢筋に沿って鋭く離れ、矢は見事に

▼入賞者コメント

◎3位 松田宏行選手（宮崎）

「嬉しい半面、あと一本中（ちゅう）てていれば優勝決定戦に出られていたので、そこは悔しいですね。外した矢は完全に引きが弱かったです。引こうとして体が突っ込んでしまうのを防ぐとして、引きが弱くなるんです。無理に引いてしまうと逆に中らなくなりませす。今回は2回目の入賞ですが、次回はもちろん優勝を狙って頑張ります」



多くの観客が朝から詰めかけた

◎優勝 吉田佳史選手（徳島）

吉田はこの遠的選手権に出場選手中最多となる17回目の出場。これまで優勝に一步届かず涙を吞んできた40歳がようやく悲願を果たした。「本当に嬉しいです。国体でも遠的では優勝させてもらってますし、引いているときに開放感があるので、遠的の方が好きです」



決勝射詰の相手は前年度優勝者。どこまでも続くような雰囲気

気が会場にあつた。

「40歳になって、普段の稽古でも矢数が減っているとこだったの、体力的に不安な点がありました。しかし、こんなチャンスは2度とないので、できる限りのことをしようと一射一射頑張りました」

当人の中では決勝の10本目の方が意識をしたという。

「家族とかいつもお世話になっていての方とか、周りの方々の力を借りて中てることができたように思います。感謝の気持ちでいっぱいです」

高校時代に弓を始め、高校のときにあった遠的の大会で優勝したのが

初めての個人タイトルだった。国体でも8年越しの100連中を達成するなど、実績を多数持つ。通常使われる1m的であればほぼ外すことはないと言信を覗かせる。

現在、鳴門渦潮高校の教員として工業を教える傍ら、弓道部の顧問として後進の指導にあたっている。

「生徒たちには『勝つための弓道は教えよらん』と言っています。どんなに練習して

も、なかなか厳しい子はいますし、だからといって全然練習しないのに試合や大会で結果を残す子とかもあつたりで、弓道は非常に残酷な競技です。ただ審査

であれば、練習のとおりできておれば、必ず請求段位がもらえますので、試合だけが弓道じゃないよと指導しています。適正とか骨格もありますが、弓道をしている中で生徒たちに伝わるものがあると思つています」

「とか言つて自分がこんなんして優勝を狙ってるんですけどね」と笑うが、信念に裏打ちされた指導は必ず次代に伝わっていくだろう。

的を捉え、皆中を達成した。

吉田、友安の2人が皆中で並び、優勝の行方は射詰競射に。両者譲らず4本目までの中。迎えた5本目。先に引いた友安が失中。それを受けて吉田は変わらぬ行射で会に入り、しばしの伸合の後に離れると、放たれた矢は的へ一直線に飛び、吉田は17回目の出場にして悲願の初優勝をその手に掴んだ。

また3位以下は9中の5名による遠近競射で決められ、3位に松田、4位に野村豊司（京都）、5位に曾山が入賞した。



男子入賞者=左から曾山、松田、吉田、友安、野村



女子優勝＝片山正美選手（静岡）

■女子の部

予選は、5中の黒川貴子（兵庫）、田中真紀（山口）、井山智草（三重）、梶山睦（千葉）、片山正美（静岡）、北風磨理（愛媛）の6名と、4中の前年度優勝の望月久美（神奈川）ら15名が決勝進出を決め、3中の19名が遠近競射に臨んで上位3名が決勝進出を果たした。

決勝は、4回目終了時点で7中で田中、片山が並び、6中の市川政子（埼玉）、望月、小松正美（大阪）、根本久美子（福島）、北風の5名が追う展開となった。最終立、市川が残念で脱落。望月と小松は羽分けて合計7中とした。田中と片山はそれぞれ2立目の前立と後立に入った。互いに甲矢を詰めて、先に田中の乙矢。田中の矢はわずかに的にかからず8中とした。中れば優勝決定という状況で観客の視線を一身に集める片山は、淡々と行射して的中。昨年2位から一気に頂点へ上り詰めた。根本、北風の2人は最終立を詰めて8中。8中の3人で2〜4位決定の遠近競射を行い、田中、根本、北風の順となり、7中の3人で5位を争って、小松が入賞した。



4位＝北風磨理選手（愛媛）



3位＝根本久美子選手（福島）



2位＝田中真紀選手（山口）



2～4位決定遠近競射は
際どい判定となった



5位＝小松正美選手（大阪）



女子入賞者＝左から小松、根本、片山、田中、北風

▼入賞者コメント

●優勝Ⅱ片山正美選手（静岡）

「遠的はあんまり得意じゃないんですけど、今年、会社で遠的場つきの弓道場を建ててくれて、練習が毎日できるので克服中です。

先人はみんな極められずに亡くなるらしいのですが、少しでも近づきたいです。離れの瞬間にくるスカッとした感覚を味わいたいです。そういうときでも的外すところも奥が深くて面白いですね」

●2位Ⅱ田中真紀選手（山口）

「10本目まで優勝がかかっていたので正直悔しいです。立に入る前に記録を見てしまっただけで、ちょっと後ろの片山さんの音を気にしてしまいました。遠近では確実に2位を取るためにしっかりと引こうと思ってました」

●3位Ⅱ根本久美子選手（福島）

「優勝したくて来ますから残念は残念なんですけど、やり遂げたような感じがあって嬉しいです。遠的が得意なので、とにかく遠的で頑張りたいと思ってます」

【大会結果】

■男子

- 優勝Ⅱ吉田佳史教士七段（徳島）
- 2位Ⅱ友安正人錬士六段（石川）
- 3位Ⅱ松田宏行五段（宮崎）
- 4位Ⅱ野村豊司錬士五段（京都）
- 5位Ⅱ曾山良和錬士六段（石川）

■女子

- 優勝Ⅱ片山正美錬士六段（静岡）
- 2位Ⅱ田中真紀五段（山口）
- 3位Ⅱ根本久美子錬士六段（福島）
- 4位Ⅱ北風磨理五段（愛媛）
- 5位Ⅱ小松正美教士六段（大阪）

好評発売中

国際武道大学教授

松尾牧則

(まつお まきのり) 著

弓道

その歴史と技法

弓矢の発生から日本における弓術の発達、技法の発展の歴史を追いながら概観し、また、世界の弓術の数々も紹介。現代の弓道の課題や射法についても踏み込んだ、弓道研究の第一線に立つ著者渾身の一書。巻末には、五百冊以上に及ぶ参考文献や、人名索引・事項索引を掲載。弓道のみならず、武道研究者必携の書。



四六判・上製・484頁

目次

- 第一章 弓矢の発生と世界の弓術
弓矢の発生と性能向上の工夫／世界の弓矢と射法／W T A Fにみる世界の弓術
 - 第二章 日本の弓矢と弓術
日本の弓矢の特性——初期の弓矢／日本弓の変遷と特徴ある形状／日本の矢と弓矢関連具／レクリエーション、儀式としての弓術／歩射と騎射／弓矢の誉
 - 第三章 弓術流派と目的に応じた射術
武術の分化と伝達様式の整備／日置弾正と勸進的の流行／日置弾正正次の肖像と技法／弓術諸流派の技法と伝承／大和流弓術とその伝達様式／三十三間堂通し矢の誉——堂射の隆盛と弓具・技法の工夫／「五射六科」五射の実践／「五射六科」六科の教養／弓術稽古の意義と心得
 - 第四章 弓術から弓道へ
弓術の衰退と命脈——明治時代の弓術／「弓術」から「弓道」へ——大正～昭和初期の弓術／昭和初期～戦中の弓道／戦後の弓道復活と連盟組織
 - 第五章 現代の弓道と将来展望
現在の弓道連盟と競技・審査／新素材の弓具／弓具・服装・施設／学校教育における弓道／現代弓道の体系化された技法
①／現代弓道の体系化された技法② 射法八節の要点／弓道——その将来展望と課題
- 参考文献・索引

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

武道の全容をこの一冊に集大成!



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

『日本の武道』の英文版(DVD付)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

(四六判・上製・320頁)

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・334頁)

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

(四六判・上製・272頁)

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)

女子63kg級優勝＝嶺井美穂選手（桐蔭学園高）



男子66kg級優勝＝阿部一三選手（神港学園神港高）



平成 26 年度
講道館杯全日本柔道
体重別選手権大会

高校生チャンピオン 3人誕生！

平成26年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟）は11月8日・9日の2日間、千葉ポートアリーナで行われ、男女14階級で覇が争われた。

男子66kg級では阿部一三（神港学園神港高）が、女子63kg級では嶺井美穂（桐蔭学園高）が、それぞれ高校2年生ながら初優勝を果たした。また、女子78kg超級でも朝比奈沙羅（渋谷教育学園渋谷高）が連覇を果たし、高校生チャンピオンが3人誕生した。

女子78kg超級優勝＝朝比奈沙羅選手（渋谷教育学園渋谷高）



■男子

▽60kg級

アジア大会3位の志々目徹(了徳寺学園職)は初戦で永山竜樹(大成高)に敗退。その永山を準決勝で破った山本浩史(ALSOK)と木戸慎二(パーク24)が決勝で対戦し、山本が内股で技有を奪って優勝を決めた。

●優勝Ⅱ山本浩史選手(ALSOK)

「最近はこの大会で初戦敗退が続いていたので、もう勝てないと思っていたので、もう勝てないと思っただけの時もありました。応援の方に感謝の気持ちも伝わったと思います」

▽66kg級

世界ジュニア準優勝の阿部一二三

(神港学園神港高)は3回戦でベテランの福岡政章(ALSOK)と対戦。浮落で一本勝すると、勢いそのままに決勝へ進出。決勝では西山祐貴(日本体育大)から大外刈で技有を奪い、男子では石井慧(国士舘高・当時)以来10年ぶり、高校2年生としては史上初の快挙となる初優勝を飾った。

●優勝Ⅱ阿部一二三選手

(神港学園神港高)

「思い切りよく自分の柔道ができたことが良かったです。またシニアでも通用することがわかったので、このスタイルで世界を目標に頑張りたいと思います。自分の中で最大の山場だった福岡選手との試合で一本勝したことで勢いに乗れました。目標としているのは野村忠宏さんです」

▽73kg級

突出した選手が出場していないこの階級、抜け出して決勝へ勝ち進んだのは西山雄希(了徳寺学園職)と橋本壮市(パーク24)。指導差で西山に軍配が上がった。



男子60kg級決勝＝山本(右)が内股で技有を奪う



男子66kg級決勝＝阿部(右)が大外刈で技有を奪う

●優勝Ⅱ西山雄希選手(徳寺学園)
「泥臭くても結果を残すことができ
て良かったです。これからの大会で
勝って来年につなげたいです」

▽81kg級

川上智弘(國學院大職)は欠場。

長島啓太(日本中央競馬会)、中井
貴裕(パーク24)といった実力者が
序盤で姿を消す中、渡邊勇人(東海
大)と丸山剛毅(天理大)が決勝進
出。丸山に指導が3つついて渡邊が
初優勝を決めた。

●優勝Ⅱ渡邊勇人選手(東海大)

「上水監督から『お前なら必ず勝て
る、なにがなんでも勝ってこい』と
言われ、それを実現することができ
ました。国際大会に向けて強化陣に
いいアピールができたと思います」

▽90kg級

加藤博剛(千葉県警)は4回戦で
負傷して敗退。西山将士(新日鐵住
金)は3回戦で姿を消した。西山大
希(新日鐵住金)は準決勝で穴井航
史(旭化成)を破るも、決勝で長澤

憲大(東海大)に苦戦。指導1の僅
差で辛勝した。

●優勝Ⅱ西山大希選手(新日鐵住金)

「ここで優勝しないと来年の世界選
手権に出場できないと思っていたの
で、グランドスラム東京につなげら
れて良かったです。まずは世界選手
権代表の座を獲りにいきたいです」

▽100kg級

高木海帆(日本中央競馬会)は、
3回戦で今年の世界ジュニア王者、
後藤隆太郎(慶應義塾大)を、4回
戦で小野卓志(了徳寺学園)を、
準決勝で増渕樹(旭化成)をそれぞ
れ破って決勝進出を決めた。相手は
羽賀龍之介(旭化成)。東海大の先
輩後輩対決となった決勝、先輩の高
木は羽賀のお株を奪う渾身の内股で
技有を奪取。これが決勝点となっ
て、高木が初優勝を果たした。

●優勝Ⅱ高木海帆選手

(日本中央競馬会)

「右膝の怪我から復帰して以降は行
き当たりばったりで試合をしていま
した。こういう舞台で龍之介と試合
ができたのは本当に嬉しいです」

▽100kg超級

小川雄勢(修徳高)は初戦で元選
手権者の高橋和彦(新日鐵住金)と
対戦。高橋が組手争いを制して小川
を圧倒。高橋が意地を見せた。高橋
は準決勝に進むも岩尾敬太(京葉ガ
ス)に敗れ、岩尾は決勝で西潟健太
(旭化成)と対戦。残り2秒で大内
刈で有効を奪い、逆転で優勝した。
●優勝Ⅱ岩尾敬太選手(京葉ガス)
「守るものもないので、あきらめず
にいくしかないと思って前に出まし
た。一つ一つ階段を上がっていけれ
ばいいと思います」



男子100kg級決勝=高木(奥)が内股で技有を奪う



男子100kg超級決勝=岩尾(右)が残り2秒で逆転



■女子

▽48kg級

世界選手権2度優勝の浅見八瑠奈（コマツ）が1年間の休養から復帰して出場。実力通り順当に勝ち上がって決勝に進出し、渡名喜風南（帝京大）と対戦した。両者決め手に欠けてゴールデンスコア方式の延長戦に突入すると、技が出なくなった渡名喜に指導。浅見が2年ぶり4度目の優勝を果たした。

●優勝Ⅱ浅見八瑠奈選手（コマツ）

「1年間自分と向き合う時間があっ



女子48kg級決勝＝浅見（右）対渡名喜

て、今日は自分との戦いというつもりでした。大きなリスクがありました。が、休養して良かったと思います」

▽52kg級

この階級の実力者、西田優香（了徳寺学園職）は決勝で志々目愛（帝京大）と対戦した。開始34秒、小内剛で技を奪うと、そのまま横四方固で抑え込んで合技一本。5年ぶり2度目の優勝とした。

●優勝Ⅱ西田優香選手

（了徳寺学園職）



女子52kg級決勝＝西田（上）が合技で一本勝した

「昨年、肘の手術をして、得意技の背負投ができなかったときに身につけたのが決勝の小内剛です。今回は橋本選手も中村選手も出ていないので自分もいることをアピールしたいと思っていました」

▽57kg級

注目の出口クリスタ（山梨学院大）は3回戦で芳田司（コマツ）に敗れ、その芳田が決勝に勝ち上がった。相手は同じコマツの石川慈。互いに攻め手に欠けたが、石川に指導



女子63kg級決勝＝嶺井（上）が平井を袈裟固に抑え込んで一本勝

2がついて芳田が初優勝を飾った。

●優勝Ⅱ芳田司選手（コマツ）

「石川選手はいつも稽古をつけてくれるので、胸を借りる気持ちでした。こっちは技は全部知っているのに、とにかくガンガン前に出るだけでした」

▽63kg級

一昨年、史上最年少でグラندスラム大会を制した津金恵（筑波大）は初戦で姿を消した。昨年2位の嶺井美穂（桐蔭学園高）は、準決勝で片桐夏海（コマツ）を破って昨年の雪辱を果たすと、決勝では平井希（自衛隊体育学校）に袈裟固で一本勝ち、66kg級の阿部に続いて、高校2年生での制覇となった。

●優勝Ⅱ嶺井美穂選手（桐蔭学園高）

「去年は決勝の舞台に上がったことが嬉しかったです。今年は勝つ気持ちで戦いました。この1年間は出場大会数が多かったので、試合の中で自分の状況を理解し、何をすべきか実戦の中で学びました。片桐さんとの試合は決勝に臨むくらいの気持ちでやりました。昨日の試合を見て、高校2年生が2人優勝ということは

少し意識していました」

▽70kg級

田知本遥 (ALSOK) と新井千鶴 (三井住友海上) が順当に決勝進出。スコアレスのまま試合は延長戦へ。開始4分15秒、ほとんど技数に差がない両者に見えたが、新井にだけ指導。田知本が初優勝した。

●優勝Ⅱ田知本遥選手 (ALSOK)

「ぎりぎりの中、結果が出て嬉し
い。私の柔道を好きとって応

援してくれている人にありがとうの
気持ちで返せたかなと思います」

▽78kg級

9月のアジア大会で銅メダルを獲
得した梅木真美 (環太平洋大) と、
この階級の顔ともいえる緒方亜香里
(了徳寺学園職) が決勝で対戦した。

両者は共に阿蘇中央高出身で、緒方
は梅木の4年先輩にあたる。試合は
緒方が場外反則を重ねて、梅木の優
勢勝。

●優勝Ⅱ梅木真美選手 (環太平洋大)

「高校の頃から緒方先輩は目標だっ
たので、決勝で戦えて嬉しかったで
す。試合は自分から積極的に前に出
たのが良かったのかもしれない。も
っともっと練習して、世界で優勝
できる選手になりたいです」

▽78kg超級

超高校級の朝比奈沙羅 (渋谷教育
学園渋谷高) が登場。2回戦で谷村
美咲 (帝京科学大) を、3回戦で鳥

帽子美久 (J R 東日本) を、準決勝
で市橋寿々華 (大阪府警) を破ると、
決勝でも井上愛美 (山梨学院大) を
寄せ付けず、連覇を達成した。

●優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手

(渋谷教育学園渋谷高)

「女子の重量級はトップが頭一
つ抜けているので、自分の実力を見
せるのが大事だと思っていました。
今日は粘り強く我慢の試合ができた
と思います。グラウンドスラムは3回
目になるので、優勝したいです」



女子70kg級決勝＝田知本 (左) 対新井



女子78kg超級決勝＝朝比奈 (右) 対井上

【大会結果】

◆男子	優勝	2位	3位
100kg超級	岩尾敬太 (京葉ガス) (初優勝)	西潟健太 (旭化成)	佐藤和哉 (日本大) 高橋和彦 (新日鐵住金)
100kg級	高木海帆 (日本中央競馬会) (初優勝)	羽賀龍之介 (旭化成)	増淵 樹 (旭化成) ウルフアロン (東海大)
90kg級	西山大希 (新日鐵住金) (初優勝)	長澤憲大 (東海大)	小林悠輔 (筑波大) 穴井航史 (旭化成)
81kg級	渡邊勇人 (東海大) (初優勝)	丸山剛毅 (天理大)	中國史寛 (東海大) 長島啓太 (日本中央競馬会)
73kg級	西山雄希 (了徳寺学園) (初優勝)	橋本壮市 (パーク24)	西岡和志 (京葉ガス) 土井健史 (天理大)
66kg級	阿部一二三 (神港学園神港高) (初優勝)	西山祐貴 (日本体育大)	吉田惟人 (神奈川県警) 高上智史 (旭化成)
60kg級	山本浩史 (ALSOK) (4年ぶり2回目)	木戸慎二 (パーク24)	藤阪泰恒 (足立学園高) 青木 大 (日本体育大)
◆女子			
78kg超級	朝比奈沙羅 (渋谷教育学園渋谷高) (2年連続2回目)	井上愛美 (山梨学院大)	市橋寿々華 (大阪府警) 稲森奈見 (三井住友海上)
78kg級	梅木真美 (環太平洋大) (初優勝)	緒方亜香里 (了徳寺学園)	高山莉加 (三井住友海上) 濱田尚里 (自衛隊体育学校)
70kg級	田知本遥 (ALSOK) (初優勝)	新井千鶴 (三井住友海上)	長内香月 (山梨学院大) 安松春香 (ALSOK)
63kg級	嶺井美穂 (桐蔭学園高) (初優勝)	平井 希 (自衛隊体育学校)	田中美衣 (了徳寺学園)
57kg級	芳田 司 (コマツ) (初優勝)	石川 慈 (コマツ)	玉置 桃 (三井住友海上) 渡部優花 (環太平洋大)
52kg級	西田優香 (了徳寺学園) (5年ぶり2回目)	志々目愛 (帝京大)	黒木美晴 (環太平洋大) 内尾真子 (筑波大)
48kg級	浅見八瑠奈 (コマツ) (2年ぶり4回目)	渡名喜風南 (帝京大)	高橋瑠衣 (修徳高) 森崎由理江 (群馬大学教)

【グラントスラム東京出場選手】

全試合終了後、直ちに強化委員会が開かれ、12月5日～7日に開催されるグラントスラム東京2014の出場選手が選出された。今回は、今年の世界選手権出場者、アジア大会優勝者、講道館杯優勝者は無条件で選出され、出場枠に余分があった場合は、講道館杯の成績や過去の実績などから総合的に検討して、代表選手を選出した。

■日本代表選手

◇男子

- ▼100kg超級Ⅱ七戸龍 (九州電力)、上川大樹 (京葉ガス)、王子谷剛志 (東海大)、岩尾敬太 (京葉ガス)
- ▼100kg級Ⅱ高木海帆 (日本中央競馬会)、羽賀龍之介 (旭化成)、ウルフアロン (東海大)、後藤隆太郎 (慶應義塾大)
- ▼90kg級Ⅱベイカー茉秋 (東海大)、吉田優也 (旭化成)、西山大希 (新日鐵住金)、長澤憲大 (東海大)
- ▼81kg級Ⅱ永瀬貴規 (筑波大)、渡邊勇人 (東海大)、丸山剛毅 (天理大)、長島啓太 (日本中央競馬会)
- ▼73kg級Ⅱ中矢力 (ALSOK)、大野将平 (旭化成)、秋本啓之 (了徳寺学園)、西山雄希 (了徳寺学園)

- ▼66kg級Ⅱ海老沼匡 (パーク24)、高市賢悟 (東海大)、阿部一二三 (神港学園神港高)、高上智史 (旭化成)
- ▼60kg級Ⅱ山本浩史 (ALSOK)、木戸慎二 (パーク24)、志々目徹 (了徳寺学園)、大島優磨 (国士館大)

◇女子

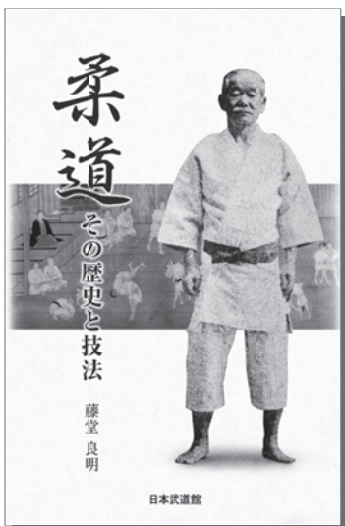
- ▼78kg超級Ⅱ山部佳苗 (ミキハウス)、田知本愛 (ALSOK)、朝比奈沙羅 (渋谷教育学園渋谷高)、稲森奈見 (三井住友海上)
- ▼78kg級Ⅱ佐藤瑠香 (コマツ)、梅木真美 (環太平洋大)、緒方亜香里 (了徳寺学園)、濱田尚里 (自衛隊体育学校)
- ▼70kg級Ⅱヌイラ華蓮 (了徳寺学園)、田知本遥 (ALSOK)、新井千鶴 (三井住友海上)、安松春香 (ALSOK)
- ▼63kg級Ⅱ田代未来 (コマツ)、嶺井美穂 (桐蔭学園高)、平井希 (自衛隊体育学校)、西川真帆 (龍谷大)
- ▼57kg級Ⅱ宇高菜絵 (コマツ)、松本薫 (フォーリーフジャパン)、山本杏 (国士館大)、芳田司 (コマツ)
- ▼52kg級Ⅱ橋本優貴 (コマツ)、中村美里 (三井住友海上)、西田優香 (了徳寺学園)、志々目愛 (帝京大)
- ▼48kg級Ⅱ近藤亜美 (三井住友海上)、浅見八瑠奈 (コマツ)、渡名喜風南 (帝京大)、森崎由理江 (鹿屋体育大学)

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p>
<p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>	

<p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ!</p>	<p>TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--	---

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

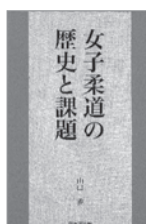


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

全国警察
柔道大会

大阪府警が警視庁を破り 15年ぶりの優勝

平成26年度第66回全国警察柔道大会（主催：警察庁）は10月27日、日本武道館で行われ、第1部は大阪府警が15年ぶりに優勝した。第2部は北海道、第3部は石川がそれぞれ優勝した。



第1部決勝=大阪・川瀬（下）の袖釣込腰で技有

第1部は7人制の12チームが参加。予選リーグは、3チームずつ4組に分かれて行われた。その後、各組の首位チームによるトーナメント戦で競われた。試合時間は4分間一本勝負で、勝負がつかない場合は引き分けとなる。チームの勝敗は勝者数で決するが、同数の場合は内容差で決まる。

リーグ戦の結果、トーナメント戦に進出したのは、前回優勝の警視庁、愛知、大阪、兵庫の4チーム。準決勝では、警視庁が3-0で愛知を、大阪が3-1で兵庫をそれぞれ降した。

決勝戦、まず先鋒戦は引き分け。次鋒戦は大阪の住谷が警視庁の小出から背負投の有効を奪い一勝。五将

戦は引き分け。中堅戦は警視庁の森田が大阪の中村から内股で技有を奪って1-1に。三将戦は大阪の森田が指導の差で勝利し、大阪が再び2-1でリードする。副将戦は、これまで一敗もしていない大阪の川瀬は、警視庁の萩本から袖釣込腰の技有を奪う。その後、萩本は足技で攻めるも時間となり、川瀬が優勢勝を収めた。この時点で3勝の大阪の優勝が決まった。大将戦は警視庁の棟田が大阪の今本から大内刈の技有を決めて勝利した。

●大阪・林広志監督

「15年ぶりの優勝、信じられませんが。昨年は、3つの団体戦を全て負けてしまっ、監督に向いてないのかと思います。東海大学の柔道部が行っている『想定稽古』を取り入れさせてもらって稽古もしました。そのような稽古内容については、どこにも負けていないという自信はありました。采配というよりは、選手に勝たせてもらえました。本当に夢みたいです」

●大阪・川瀬孝司選手

「大阪府警として出場した団体戦の

成績は16戦無敗（2年間）ですが、個人戦では結果を出せていないので、個人戦で優勝したいです」



第1部優勝=大阪

【大会結果】

- ▽第1部 ①大阪 ②警視庁 ③兵庫
- ▽第2部 ①北海道 ②愛媛 ③宮崎
- ▽第3部 ①石川 ②岩手 ③山形
- ◇全勝者表彰 川瀬孝司（大阪）

警視庁が兵庫県警を破り 2年連続優勝

平成26年度第61回全国警察剣道大会（主催：警察庁）は10月28日、日本武道館で行われ、第1部は警視庁が優勝し2連覇を果たした。第2部は福岡、第3部は宮崎がそれぞれ優勝した。



第1部決勝＝警視庁・高橋（右）が合面を決めた

2年連続優勝

第1部は7人制の12チームが参加。予選リーグは3チームずつ4組に分かれて行われた。その後、各組の首位チームによるトーナメント戦で競われた。試合時間は5分間三本勝負で、時間内に勝敗が決まらない場合は、3分間一本勝負の延長戦を行う。それでも決まらない場合は、引き分けとする。

リーグ戦の結果、トーナメント戦に進出したのは、警視庁、長崎、兵庫、北海道の4チーム。準決勝では、警視庁が4―2で長崎を、兵庫が4―3で北海道をそれぞれ降した。

決勝戦、まず先鋒戦は引き分け。次鋒戦は警視庁の越川が延長に入った直後、兵庫・菅野から引き面を奪い先制する。五将戦は、警視庁・林

が兵庫・江口の手元が上がったところを小手に決め2勝目。続く中堅戦でも警視庁・畠中が一本勝を収め、3―0となる。三将戦、後のない兵庫・佐藤は警視庁・高橋と対戦。高橋は開始早々に合面を決めた。佐藤も積極的に技を出すのが、高橋の出手が決まり、高橋の二本勝。ここで4勝した警視庁の優勝が決定。副将戦以降は全日本選手権出場者同士の対戦となった。警視庁・正代と兵庫・西村の対戦は、西村の跳込面が決まり一本勝。大將戦、警視庁・内村と兵庫・網代の対戦は、網代が跳込面を決め一本勝を収めた。

●警視庁・恩田浩司監督

「選手がよくやってくれました。今日優勝したから特別なことをするわけではなく、1年間を通じた計画がありますので、明日から次に向かって稽古をするだけです」

●警視庁・林雄貴選手（全勝者表彰）

「自分の剣道を貫き通し、力を出し切ることに集中できたので、結果が出たのだと思います。相手に攻め込まれ、手元が浮いてしまうと、崩れてしまい、良い技が出せないと思っ

ていました。攻め込まれても手元を上げないよう意識して試合に臨みました」



第1部優勝＝警視庁

【大会結果】

- ▽第1部 ①警視庁 ②兵庫 ③長崎
- ▽第2部 ①福岡 ②熊本 ③山口
- ▽第3部 ①宮崎 ②沖縄 ③山形
- ◇全勝者表彰 林雄貴（警視庁）

好評発売中

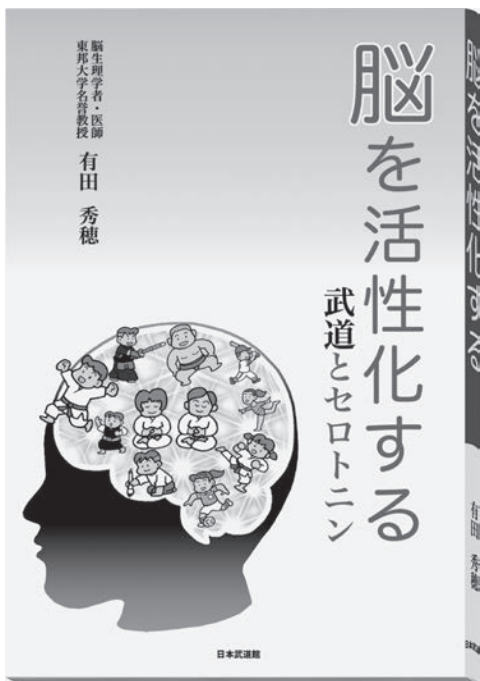
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光

東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)

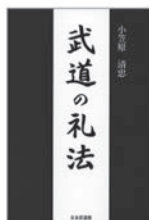


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

The 13th Funakoshi Gichin Cup World Karate-Do Championship 2014



日本が全8種目を制し、
完全勝利

船越義珍杯
第13回世界空手道選手権大会

船越義珍杯第13回世界空手道選手権大会（主催：日本空手協会）は、10月17日・18日の2日間、46カ国297人が参加し、日本武道館で開かれた。結果は前回に続き、組手と形の全8種目で日本が優勝した。

《組手》

団体（点取り方式）・個人ともにトーナメント戦で争われ、試合時間は2分間一本勝負（男子個人戦決勝のみ5分間三本勝負）、時間内に決しない場合は判定が行われた。

◇男子団体（5人制・24チーム）

日本は初戦となる2回戦で相手チーム棄権による不戦勝、3回戦でアルゼンチン、準決勝でチリと対戦し、共に4-0で勝利した。一方のブロックでは、準決勝でイングランドを

男子団体次鋒戦、浅野真治対アルノー＝浅野（右）がカウンターの中段突きを決める



日本チーム

降したベルギーが勝ち上がった。

決勝、日本対ベルギーは先鋒戦で飯村吏毅きやがナフスに上段突きを重ねて勝利。次鋒戦も浅野真治がアルノーに中段突きを2回決め、日本のリードを広げた。中堅戦、忠鉢考治ちゅうぼちは中段突きで先制するも、ドミニクに上段突きを決められる。その後、忠鉢が中段突きに跳び込むと、これが深く刺さって2つめの技有り。日本の優勝が確定した。副将戦はクリストフが一本となる右上段回し蹴りで岡田泰典を降す。勝負がついているとはいえ、大技が決まって会場は盛り上がる。大將戦は志水亮介が上

段突き2つで勝利。4-1で日本が頂点に立った。

3位決定戦は、チリがイングランドを2-1で降した。

◇女子団体(3人制・18チーム)

日本は初戦でカナダ、2回戦でアルゼンチンと対戦し、一人も負けることなく勝利。準決勝もドイツを3-0で降した。

決勝は、準決勝でノルウェイを2

1で降したイングランドと対戦した。先鋒戦は廣瀬まりが遠間から上段突き、中段突きを決めてオハロランを退けた。次鋒戦は、田口聡珠さとみが前拳でセルスノバを牽制。居着いたところを狙って中段突きを2つ決め、勝利した。この時点で日本の優勝が決定。大將戦は椎名舞がロッシンを降し、日本の勝利に華を添えた。3位決定戦は、ノルウェーがドイツを2-0で降した。



男子団体先鋒戦、飯村対ナフスⅡ飯村(右)の上段突きが決まる



女子組手団体先鋒戦、廣瀬まり対オハロラン=廣瀬(左)が遠間から跳び込んで中段突きを決める



◇男子個人組手 (131人)

ベスト4には、前回優勝の飯村吏

毅哉(総本部)、準優勝の忠鉢考治

(総本部)、3位の根本敬介(総本部)、

そして、準々決勝で猪越悠介に中段

男子個人組手決勝、忠鉢対飯村Ⅱ
上、飯村(右)が中段蹴りを決めて先制
左、忠鉢(右)が蹴りを捌いて逆突きを決める

蹴りを決めて勝ち上がったってきたスー
パ(タイ)が名を連ねた。

準決勝、忠鉢対根本は、忠鉢が根

本の右中段蹴りを左手で捌き、すぐ

さま上段突きのワンツーを決めて技

有り。そのまま時間となって判定で

忠鉢が勝利した。飯村対スーパは飯

村が、近間での上段の突き合いを2

度制し、決勝に駒を進めた。

決勝は前回と同じ顔合わせ。右構

えの飯村は遠間から左中段蹴りを決

めて技有り。忠鉢も負けじと逆突き

の連続技で取り返し、ポイントが並

ぶ。その後、先を狙う飯村が再び中

段蹴りで攻める。しかし、今度は忠

鉢が待ってましたと突きで迎え撃

ち、リードを広げた。さらに、忠鉢

は技有りとなるカウンターの中段突

きを2つ奪い優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ忠鉢考治選手(駒澤大)

「外国人選手は力も早さもすごいの

で、技術で勝負しました。飯村選手

は中段蹴りが早いので、それに合わ

せる形で技を決めました」

試合中、どの選手よりも子供たち

からの声援を受けていた。

「みんなの声はしっかりと聞こえま

した。とても力になりました。子供

たちには、頑張っただけいいんです。

しっかりとやれば強くなれることを伝

えたかったです」

◎3位Ⅱスーパ・ナンファーエンテ選手(タイ)



「猪越選手には

うまく蹴りを決

めることが出来

てよかったで

女子個人組手準決勝、椎名(右)対伊東。椎名が上段突きを決める



女子個人組手準決勝、田口(右)対椎名。田口のカウンターが最終決着

女子個人組手準決勝、田口(右)対シフコバ。田口が中段突きを2つ決めて決勝の舞台へ

す。スピードとタイミングがあった、いい技が出せると気持ちいいですね。結果には満足しています」

◇女子個人組手(67人)

準決勝に勝ち上がったのは伊東佑季(駒澤大)、椎名舞(総本部)、田口聡珠(駒澤大)、シフコバ(チェコ)。椎名対伊東は、椎名が右上段逆突で先制。追いつきたい伊東は、自らの間合いを詰めて機をうかがう。場外際までさがる椎名が攻撃に転じると、右上段逆突きが決まり勝利した。

田口対シフコバは、右構えの田口がシフコバの上段突きを左中段突きに返して技有り。その後、シフコバが上段突きのフェイントで前に出たところ、田口は低く跳んで中段突きを奪い、決勝の舞台へ。

決勝、田口対椎名は、序盤から両者とも様子見の展開が続く。技が出ない。残り30秒を切ったところで、椎名が逆突きの連続技で攻める。田口はこれを冷静に上段逆突きで迎えて技有りとなる。時間となり、判定で田口が勝利した。

◎優勝Ⅱ田口聡珠選手(駒澤大)

「試合で外国人と勝負するのは初め

てでした。相手の攻撃を誘って技を決めるのが得意です。今日は、自分のスタイルを貫こうと心がけていました。椎名選手とはよく練習しています。あれこれ考えて固くならないよう気をつけました」

◎3位Ⅱシフコバ・ペトラ選手(チェコ)



「銅メダルを取れたなんて、信じられません。日本人選手が活躍する中、ヨーロッパにメダルを持ち帰ることが出来て光栄です」

《形》

団体戦は予選得点上位8チームが得点方式による順位決定戦を、個人戦はトーナメント戦で勝ち上がった16名が得点方式による半数勝ち残りの準決勝戦を、その後、勝ち残った8名で最終順位決定戦を行った。

◇男子団体形(21チーム)

日本は、栗原一晃、上田大介、福原秀樹で臨み、予選は観空大で1位通過した。

順位決定戦に残ったのは、カナダ、ドイツ、ハンガリー、日本、ロシア、アメリカ、南アフリカ、モナコの8



男子団体形優勝II日本(壮鎮)
右から上田、栗原、福原



女子団体形優勝II日本(五十四歩小)
右から氷川、上杉、早川



準優勝=上田大介(壮鎮)



3位=栗原一晃(壮鎮)



優勝=栗原秀元(五十四歩小)

カ国(演武順)。日本は一糸乱れぬ壮鎮で42・5を記録。2位はカナダが雲手で41・6、3位は五十四歩小で41・5のハンガリーとなった。

◇女子団体形(18チーム)

氷川菜緒と早川梨緒の駒澤大コンビと早稲田大・上杉ユミの大学生チームで出場した日本は、予選で燕飛を演武し、42・5のトップ成績で勝

ち上がった。

最終順位決定戦に残った8強は、日本、アルゼンチン、オーストラリア、チェコ、ブラジル、イングランド、ドイツ、ロシア(演武順)。技の早さで群を抜く日本が、五十四歩小で42・8を出して優勝。2位は五十四歩小で41・4のロシア、3位は二十四歩小で41・2のドイツとなった。

◇男子個人形(123人)

準決勝は前回3位の福原秀樹(渋谷川空友館)が観空大で42・5を記録し、1位通過。次いで2連覇中の栗原一晃(総本部)が抜塞大で42・4、上田大介(総本部)が慈恩で41・9、栗原秀元(駒澤大)が燕飛で41・2を記録して決勝の舞台へ。

決勝、最初の演武は栗原(一)。

重厚な壮鎮を打つも途中ぐらつき、42・0の結果。次に登場した上田は同じく壮鎮で42・2を出す。5番目に演武の栗原(秀)は切れのある五十四歩小で42・5を記録。7番目、予選トップの福原は期待がかかるも、雲手を演武し41・9止まり。結果は栗原(秀)が初優勝、次いで上田、栗原(一)、福原の順となった。



準優勝=高木綾乃(五十四歩大)



3位=氷川菜緒(五十四歩小)



優勝=中町美希(五十四歩小)

◎優勝Ⅱ栗原秀元選手(駒澤大)

「兄に優勝してほしかったので、複雑な気分です。決勝では先に演武した兄の点が伸びず、思わず泣いてしまいました。周りの人たちに切り替えてろといわれて、無我夢中で頑張りました。優勝しましたが、驕らずにチャレンジ精神を大切にしていきます」

◎3位Ⅱ栗原一晃選手(総本部)

14歳下の弟、秀元に敗れ、3連覇には届かなかった。

「調整不足でした。結果は残念でしたが弟が優勝したので、悔しさも忘れました。自分が優勝するより嬉しいです」

◇女子個人形(78人)

予選は前回準優勝の中町美希(邦

空館長津田道場)と上杉ユミ(早稲

田大)が観空大を演武し、共に42・3で首位。それに次ぐ得点は、高木

綾乃(空優会)が観空大で42・2、氷川菜緒(駒澤大)が燕飛で41・8。

決勝、中町が五十四歩小、高木が五十四歩大で共に42・2。この成績を超える者がなく、同点決勝となる。両者とも再び同じ形で臨み、結果は

正確な技でまとめた中町が42・4、高木が42・1で、中町が勝利した。

3位は五十四歩小で41・8の氷川、4位は雲手で41・7の上杉となった。

◎優勝Ⅱ中町美希選手

(邦空館長津田道場)

2歳の娘を育てながら稽古を続け、初の世界チャンピオンに輝いた。「稽古は週2回です。あまり時間にとれません、先生方の言葉を一言も聞き逃さぬよう、集中して練習しています。これから母になる空手家にな、いい刺激になれば嬉しいですよ」

◇日本チーム監督Ⅱ小倉靖典七段

「外国人選手のレベルが上がっていると感じました。これからは、遠征で外国人選手との試合数を増やすなどの対策が必要になるかもしれません」

ん。もちろん、勝ち負けばかりでなく、礼など、きちんとした武道としての姿勢を忘れてはなりません。そういった側面でも各国での普及が進み、全体としてのレベルアップが図られることを望んでいます」

【大会結果】

□組手団体▽男子Ⅱ①日本②ベル

ギー③チリ▽女子Ⅱ①日本②イ

ングランド③ノルウェー

□組手個人▽男子Ⅱ①忠鉢考治

(総本部)②飯村吏毅哉(総本部)

③根本敬介(総本部)、スパー

ナンフーエンテ(タイ)▽女

子Ⅱ①田口聡珠(駒澤大)②権

名舞(総本部)③伊東佑季(総

本部)、シフコバ・ペトラ(チ

エコ)

□形団体▽男子Ⅱ①日本②カナダ

③ハンガリー▽女子Ⅱ①日本②

ロシア③ドイツ

□形個人▽男子Ⅱ①栗原秀元(駒

澤大)②上田大介(総本部)③

栗原一晃(総本部)▽女子Ⅱ①

中町美希(邦空館長津田道場)

②高木綾乃(空優会)③氷川菜

緒(駒澤大)

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光日本武道館会長



(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手からての精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

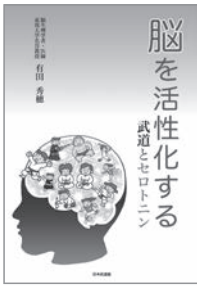
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著

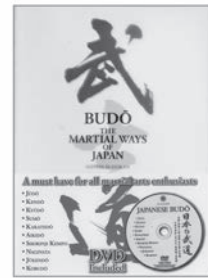


人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDO: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

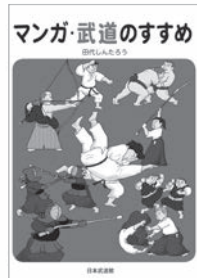


武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

田谷将俊 著

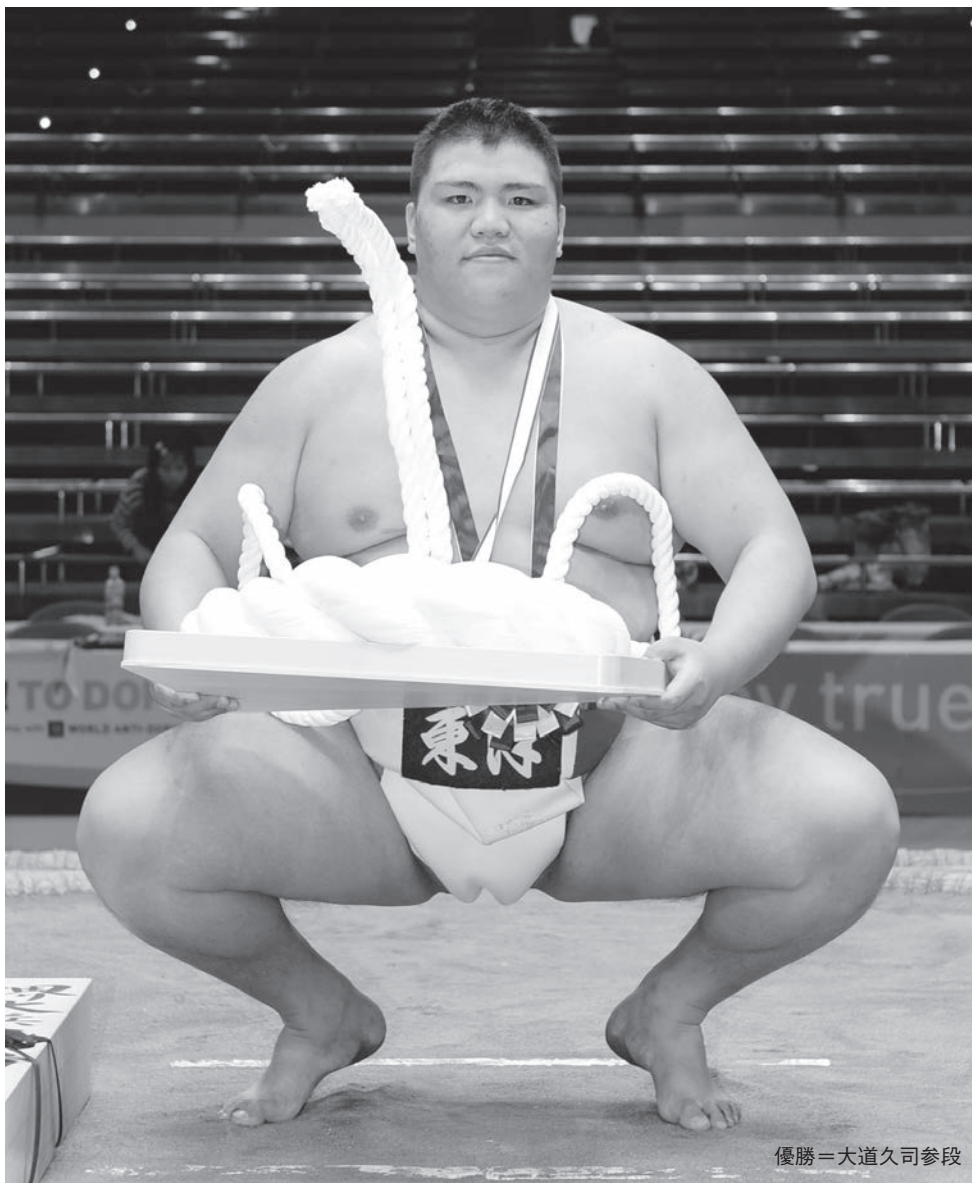
月刊「武道」記者



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)

大道久司（東洋大）が学生横綱



優勝＝大道久司参段

第92回全国学生相撲選手権大会

第92回全国学生相撲選手権大会は、11月8日・9日の両日、東京両国の国技館で開かれた。初日は団体戦Cクラスと個人戦が、2日目は団体戦A、Bクラスが行われた。

個人戦では決勝で大道久司（東洋・4年）が中村大輝（日本体育・4年）を押し出して初優勝を遂げ、学生横綱のタイトルを手にした。団体戦Aクラス決勝では、日本体育が拓殖を降し、3年ぶり5回目の優勝を果たした。

個人戦

201選手が4ブロックに分かれて予選を行い、各上位8名（計32名）が決勝トーナメントに進んだ。

◎決勝トーナメント

3年前、1年生ながら3位の成績を残した大道久司（東洋）は、初戦で永田将輝（近畿）を押し出し、2回戦で南友太（日本体育）を掬い投げ、準々決勝では前回3位の木崎信志（日本）を押し出して降した。

前々回優勝の中村大輝（日本体育）は、2回戦で世界大会優勝のトルポルド（日本）を破った長内拓



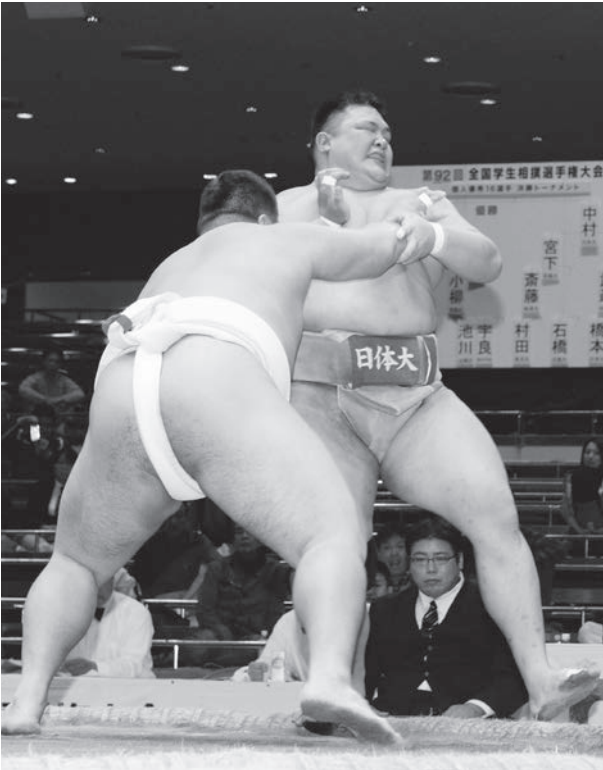
準決勝、佐々木（日本）を押し出し



準々決勝、木崎（日本）を押し出し



2回戦、南（日本体育）を掬い投げ



決勝、大道（手前）は中村の引き落としをものともせず、一気に押し出した



決勝、中村（右・日本体育）がおっつけて粘る

磨（近畿）と対戦し、押し倒しで勝利。続く準々決勝も武政進之介（明治）を押し出して破った。

ベスト4に勝ち上がったのは、大道、佐々木耕大（日本）、中村、宮下治也（拓殖）。

○準決勝

大道久司 押し出し 佐々木耕大 立ち合い、大道の強い当たりで佐々木は体を起こされる。大道は勢いそのまま一気に押し出した。

中村大輝 押し出し 宮下治也 互角の立ち合いから押し合いとな

る。宮下が叩き込みを狙うも中村の足がよくついていき、押し出しで中村が勝利した。

○決勝

大道久司 押し出し 中村大輝

中村は低い立ち合いで左前禰を狙うも、大道の押しが強く、まわしが取れない。大道はもろ差して圧をかける、中村はおっつけて堪えるのが精一杯。最後は中村の引き落としにおかまいなしで前に出る大道が、押し出して勝利した。

▽優勝Ⅱ大道久司選手（東洋）

「大会前に中村選手と決勝で会おうと話していたので、対戦できて嬉しかったです。自分が出る相撲しか教わっていません。引いたら負けると思っていました」

学生横綱になり、大相撲に入る場合は、幕下15枚目標付出となる。

「来月の天皇杯で優勝を目指しています。今後の進路はそれが終わるまで考えないようにしています」

▽準優勝Ⅱ中村大輝選手（日本体育）

「立合いは五分でしたが、相手の圧力が上で、押されました。明日は人生最後の団体戦です。それに勝つことが一番の価値です。頑張ります」

日本体育対拓殖、白熱の団体決勝



先鋒戦、日本体育・主将の中村（右）が、押し出しで手堅い一勝



中堅戦、個人戦3位入賞の拓殖・宮下（奥）が、突き落として勝利をもぎ取る

勝負のかかる大将戦、日本体育3年の西方（奥）は突き落として勝利。試合後、主将の中村選手から「次期主将として申し分ない逸材」との評価を受ける

団体戦

Aクラスの予選には、Bクラス優秀4校を含めた16校が出場。3試合ずつの予選の結果（勝数と勝者数）で上位8校を決め、決勝トーナメントに進んだ。

◎決勝トーナメント

前日の個人戦で優勝の大道久司を擁し、2連覇を狙う東洋、同じく前日に個人準優勝の中村大輝率いる日本体育、最多優勝回数（記録を持つ）日本に注目が集まった。

準決勝には日本体育、日本、拓殖、東洋が揃った。

○準決勝

日本体育 4-1 日本

先鋒戦に登場の日本体育主将、中村大輝は、日本・佐々木耕大を突き落としで退けた。余勢を駆って次鋒、中堅で日本体育が勝利。前3つで日本体育が決勝進出を決めた。

拓殖 3-2 東洋

先鋒戦を拓殖に取られた東洋は、次鋒戦で大道が拓殖・黒川宏次朗から上手出し投げを決めて星を戻す。中堅戦は拓殖が勝利し、再びリード。副将戦は、拓殖・後藤鷹輔（ようたけ）が突

き落として勝利し、拓殖が26年ぶりに決勝の舞台へと進んだ。

○決勝

日本体育 3-2 拓殖

中村大輝 ○押し出し 久保 裕（ゆたか）

濱町明太郎 ○引き落とし 黒川宏次朗

由留部圭祐（ゆりべ） 突き落とし ○ 宮下治也

三輪隼人 押し倒し ○ 後藤鷹輔（ようたけ）

西方航（じかた） ○突き落とし 小向健太

先鋒戦、日本体育・中村は立ち合い変化した拓殖・久保を逃さず、押し出した。次鋒戦は押し合い有利に進めた日本体育・濱町が、拓殖・黒川の足が後ろに滑ったのを見るや否や、引き落として勝利した。

後がない拓殖は、中堅の宮下が、寄り日本体育・由留部に対し、体を開いて勢いよく突き落としを決めた。副将戦、拓殖・後藤は立ち合いから突きに徹する。日本体育・三輪はまわしを取ろうとするも後藤の突きにバランスを崩す。すぐさま後藤が押し倒して勝利した。

勝負のかかる大将戦。立ち合い、両者激しくゴツンと頭からぶつかる。それもつかの間、日本体育・西方は体を開き、突き落としを狙う。拓殖・小向は、なんとか下手を取る

A クラス 予選結果

大学名	1回戦	2回戦	3回戦	勝数	得点	順位
東洋	③	2	⑤	2	10	6
近畿	④	⑤	2	2	11	4
日本	⑤	③	③	3	11	1
東京農業	④	④	2	2	10	6
九州情報	④	④	③	3	11	1
同志社	1	③	2	1	6	10
日本体育	2	⑤	④	2	11	4
中央	2	④	2	1	8	9
拓殖	⑤	2	③	2	10	6
明治	③	③	③	3	9	3
金沢学院	④	0	1	1	5	11
立命館	1	1	③	1	5	12
専修	1	0	2	0	3	15
法政	0	1	0	0	1	16
朝日	0	2	2	0	4	14
駒澤	1	1	③	1	5	13



優勝II日本体育

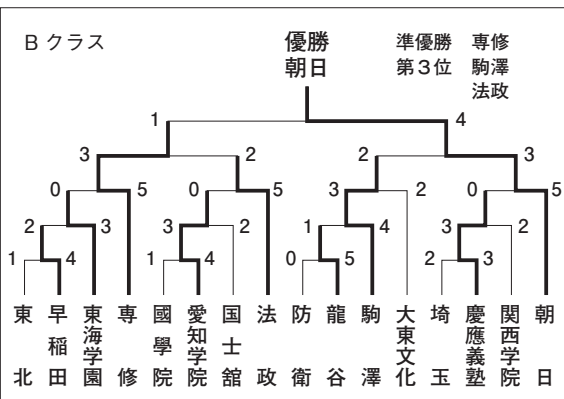
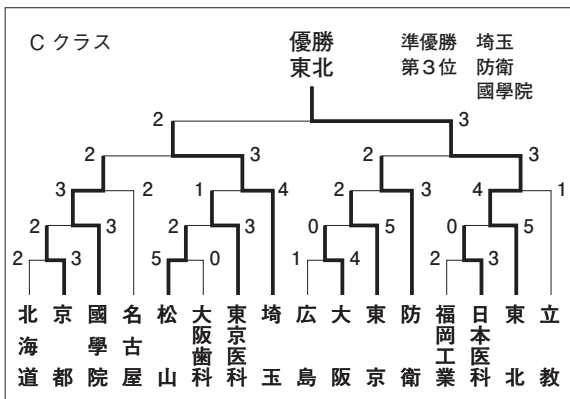
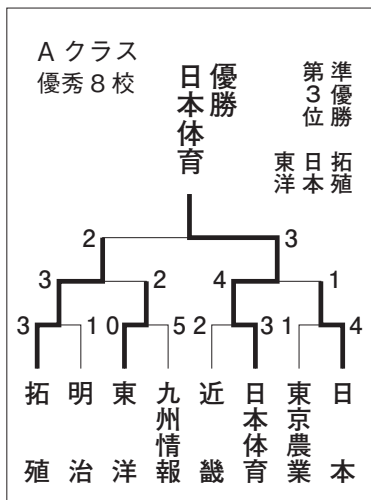
うと手を伸ばすも間に合わず、前のめりになって体を土につけた。その瞬間、日本体育の優勝が決定。興奮冷めやらぬ中、選手、関係者は抱き合って喜んだ。

▽優勝II日本体育大将・西方航選手
「決勝の相手は同級生で、何度も対戦したことがあります。本当は寄り切る形がよかったです。勝ててよかったです」

▽優勝II日本体育主将・中村大輝選手
「まずは先鋒で確定の一勝を取って、流れを引き寄せようと考えていました。嬉しいの一言です。卒業したら大相撲に行きます。子供の頃から一番強い人はどんな人なんだろうと思っていました。ワクワクしています」

▽優勝II日本体育・齋藤一雄監督
「準決勝で日本に勝って、勢いに乗りました。今年は中村選手のチームでした。彼のおかげです。大将の西方選手は来年の主将です。これで中村選手からいい伝統が受け継がれたと思います」

▽準優勝II拓殖・舛田守監督
36年ぶりの優勝にあと一步届かなかった。
「結果が全てです。まだ足りないところがあつたんでしょう。学生たちは、こちらがあれこれ言わなくても自らよく練習します。早く結果が出てほしいなと思っていました。3年生中心でよくやっただと思います。このチームはこれからがスタートです。今後が楽しみです」



一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本の武道

日本武道館 編



(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（武道憲章）（武道憲章英訳文）（ごも武道憲章）
カラー口絵（日本武道館 9 武道 10 日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：
村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第4節 武道の魅力……………

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授

第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授

第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者

第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟

第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟

第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟

第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟

第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟

第6節 合気道…………… (財)合気道連盟

第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟

第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟

第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………

第2節 全国都道府県立武道館協議会……………

第3節 日本武道学会……………

第4節 日本古武道協会…………… ① 国際武道大学 ② 国士館大学

第5節 武道学科等設置大学…………… ③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学

⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………

第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………

第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………

第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授

第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授

第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

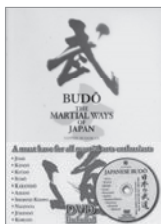
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る! 安井和男 先輩部長が育てる侍力士



第5回 鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会

過去最多 34 流派が 武神の前で演武を披露

第5回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催＝日本武道館・日本古武道協会）が、10月26日、茨城県鹿嶋市の鹿島神宮で開催され、日本各地に伝わる34の流派が技を披露した。

鹿島神宮では今年、平成23年の東日本大震災で倒壊した大鳥居が、6月に再建された。以前のような御影石製ではなく木製だが、樹齢500年、600年の木を使い、かつてと同じ大きさで作られた。また、9月には12年に一度の御船祭が行われた。

平成22年に始まった本大会は、このような鹿島神宮の記念すべき年に、第5回の節目を迎えた。参加希望流派は年々増え、過去最多の34流派が参加しての開催となった。

演武場は、鹿島神宮の拝殿前に設けられた。大勢の観客が集まる中、大会は午前10時に開会。はじめに開会式が行われ、松永光日本武道館会長が主催者として「古武道は、現代武道の源流をなすものです。古武道が連綿と伝承され、隆盛してきたのは、国民の皆様の応援があったからです。本日も多くの皆様にお集まりいただき、感謝にたえません。今後とも武道、古武道へのご支援を賜りますようお願い申し上げます、感謝の言葉といたします」と挨拶した。

次に、市村修鹿嶋市副市長が「古武道の大会が武の神である鹿島神宮で盛大に開催されることは大変意義



鹿島則良
鹿島神宮宮司



市村 修
鹿嶋市副市長



松永 光
日本武道館会長



再建された鹿島神宮の大鳥居



錦織孝一
鹿嶋市長



白井日出男
日本武道館理事長

演武大会前日の25日には、午後3時半より術技研修交流会が、鹿島神宮武徳殿で行われた。ここでは、演武者同士の交流を目的に、各流派が技を披露し合う。日頃なかなか接することのない他流派の一挙手一投足に、参加者たちは真剣な視線を送っていた。

約2時間の術技研修交流会終了後、場所を移して懇親会が開かれた。懇親会では、白井日出男日本武道館理事長が主催者を代表して挨拶。続いて錦織孝一鹿嶋市長の祝辞、鹿島則良鹿島神宮宮司の歓迎の言葉と続いた。鏡割の後、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の発声で乾杯した。会が進むにつれて、流派を越えた交流が行われ、参加者間での親睦は年々深まっているようだった。また、鹿嶋市協力団体、各流派が壇上に上がってのスピーチなども行われ、会は大いに盛り上がった。

深く感じております。皆様が、日頃からの鍛錬の成果を十分に発揮され、伝承されて来た技を十分に披露されますことを心からご期待申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍を願っております。観覧される皆様におかれましては、伝統と技を目に焼き付け、心でその重みを感じ取っていただければと思います」と祝辞を述べた。

また、鹿島則良鹿島神宮宮司から「皆様ようこそお越しくださいました。この鹿島の神様は、古事記、日本書紀の中で、武の神様と書かれております。大神様も皆様が演じるのを楽しみに待っております。皆様の日頃鍛えた技を存分に発揮してください」と歓迎の言葉が述べられて開会式は終了した。

最初の流派は、地元鹿島に伝わる鹿島新當流。演武が始まると、静かな境内に太刀の交わる音が響いた。休みなく演武は続き、日本各地に伝わる流派が順番に8分ずつ技を披露していった。



演武場の左右に設けられた観客席は満席となり、正面側はぐるりと囲むように立見客で埋め尽くされた。観客は、カメラやビデオを片手に、あるいはプログラムの解説を参照しながら見入っていた。また、七五三の時期ということもあって家族連れの参拝客をはじめ、多くの人が演武場の前で足を止めていた。

演武が始まると、静かな境内に太刀の交わる音が響いた。休みなく演武は続き、日本各地に伝わる流派が順番に8分ずつ技を披露していった。

約4時間にわたって行われた大会の最後は天真正伝香取神道流が飾り、山田重夫日本古武道協会事務局長の閉会宣言で幕を閉じた。



関口流抜刀術



沖縄剛柔流武術



卜傳流剣術



琉球王家秘伝本部御殿手



竹生島流棒術



タイ捨流剣法



無雙直傳英信流居合術



宝蔵院流高田派槍術



示現流兵法剣術



大東流合気柔術琢磨会



柳生新陰流兵法剣術



心月無想柳流柔術



尾張貴流槍術



心形刀流剣術



神道夢想流杖術



伯耆流居合術



北辰一刀流剣術



為我流派勝新流柔術



荒木流軍用小具足



荒木流拳法



大東流合気柔術



田宮流居合術



天然理心流剣術



琉球古武術



立身流兵法



無比無敵流杖術



神道無念流剣術



和道流柔術拳法



天道流薙刀術



天真正伝香取神道流剣術



鞍馬流剣術



長谷川流和術



柳生心眼流體術

- 【出場流派・演武者】
- ① 鹿島新當流剣術（内田嘉昭、小松崎政史、岡見安宏、原正俊、豊屋敏道）
 - ② 沖繩剛柔流武術（寺内一男、山城勝也、戸田雄紀、村上実、若林義昌、小金浩）
 - ③ 卜傳流剣術（小山秀弘、小山隆秀）
 - ④ 関口流抜刀術（米原龜生、中山洋一、林憲一、上原征二、本庄弘幸、青木正孝）
 - ⑤ 大東流合気柔術琢磨会（川辺武史、西谷修、芝田彰祐、芝田知香、澤田耕一）
 - ⑥ タイ捨流剣法（上原エリ子、山本隆博、野中修二、角田勝則、田中成彦、佐藤友昭）
 - ⑦ 竹生島流棒術（松浦寛澄、松浦利英、橋口英雄、村上和紀）
 - ⑧ 無雙直傳英信流居合術（藤井勝子、野口富久子、尾形明夫、関口高一、中野園子、エベレット・リー）
 - ⑨ 琉球王家秘伝本部御殿手（中宮誠、鈴木佳衛、片山修、加藤慎一、勝沼悠、島海真）
 - ⑩ 示現流兵法剣術（東郷重賢、有村博康、藤村亨、下津浩一、末吉雄三朗、ブラッドショー・アレキサンダー）
 - ⑪ 宝蔵院流高田派槍術（粕井隆、西本昌永、松井典夫、加藤亮嗣）
 - ⑫ 心形刀流剣術（小林強）
 - ⑬ 荒木流軍用小具足（豊田良樹、千葉明、片桐克彦）
 - ⑭ 神道夢想流杖術（荒井洋、小野景久）
 - ⑮ 心月無想柳流柔術（桑波田秀祐、八島和雄）
 - ⑯ 柳生新陰流兵法剣術（柳生耕一、徹信、竹内孝幸、星川宜禎、中山雄介、洲上俊頭、葭谷努）
 - ⑰ 伯耆流居合術（大窪敬明、吉岡勝子、川上作男、藤田春行、奥村宗一郎）
 - ⑱ 荒木流拳法（菊池邦光、鈴木荒一、永田仁志、鈴木崇史、菊池京一、西川二郎）
 - ⑲ 北辰一刀流剣術（兼子勝喜、田中榮治）
 - ⑳ 尾張貫流槍術（横地浩紀、森治紀、神原会弥、三木信輔、新小田次徳、山内一統）
 - ㉑ 為我流派勝新流柔術（根本憲一、唯之、大和久正章、村木浩治、久野周也）
 - ㉒ 神道無念流剣術（小川武、萩崎昭、土屋正則、玉根純也）
 - ㉓ 琉球古武術（菅田潔、高橋淳也）
 - ㉔ 田宮流居合術（妻木達夫、小野信義、山田千代和、山口隆一）
 - ㉕ 天然理心流剣術（加藤恭司、サンドロ・フルツイ、小林恵子、常田貞行）
 - ㉖ 天道流薙刀術（木村恭子、木村有里）
 - ㉗ 大東流合気柔術（近藤昌之、天野鎮夫、石井勇一、岩瀬裕孝）
 - ㉘ 立身流兵法（加藤紘、加藤敦、山田市郎、甲賀喜助、渡辺紳一、近藤恭弘）
 - ㉙ 無比無敵流杖術（根本憲一、唯之、安二郎、沢幡伸男、落合脩治、渡辺文男）
 - ㉚ 和道流柔術拳法（大塚博紀、押田良光、井上義孝、金澤紀代子）
 - ㉛ 鞍馬流剣術（柴田章雄、東山誠、松尾和夫、吉田稷寛、松井康一、山本茂夫）
 - ㉜ 柳生心眼流體術（梶塚靖司、寺久保敦也、小林茂雄、吉岡一紀、藤澤勝也）
 - ㉝ 長谷川流和術（桑原巡、倉田勝己、逸見彰一）
 - ㉞ 天真正伝香取神道流剣術（京増重利、荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也）

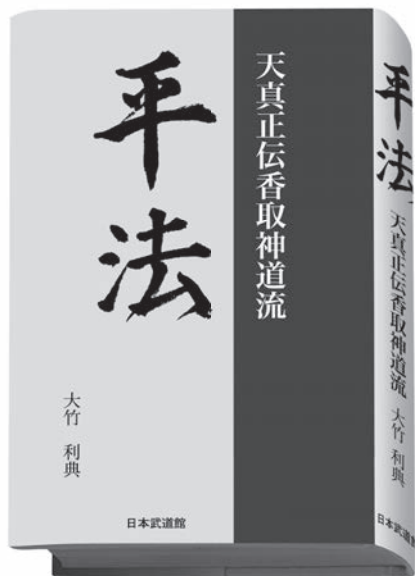
好評発売中

天真正伝香取神道流師範 大竹利典 著

平法

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、 「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ—
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり —平和を願う偉大なる教え—



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著
(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究者
横瀬 知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。